

# Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

Title	資料 ラテンアメリカ日誌 1978年
Author(s)	
Journal	イペロアメリカ研究, 2(1)
Issue Date	1980-04-01
Type	紀要/Departmental Bulletin Paper
Text Version	出版者/Publisher
URL	<a href="http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/8922">http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/8922</a>
Rights	



上智大学  
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

ラテンアメリカ日誌 — 1978年

月日	国名	事項
1・4	チリ	国連チリ非難決議に対しピノチェト政権の信を問う国民投票(75%の支持)。
1・5	ブラジル	ガイゼル(Ernesto Geisel)大統領、次期大統領候補に国家情報局長官ジョアン・パチスタ・フィゲイレード將軍(João Baptista Figueiredo)を指名。
1・6	メキシコ	全米熱帯マグロ条約から脱退。
1・7	ブラジル	中国・ブラジル貿易協定調印(北京)。
1・10	ボリビア	政府、全土に非常事態宣言。
1・10	ニカラグア	反ソモサ派「ラブレんサ」紙社長ペドロ・ホアキン・チャモロ(Pedro Joaquín Chamorro)暗殺される。
1・10	コスタリカ・メキシコ	(~11) コスタリカ大統領ダニエル・オドゥベル・キロス(Daniel Oduber Quiros)メキシコ訪問。
1・12	キューバ	カーター米大統領、ソ連およびキューバのエチオピア介入を非難。
1・14	ブラジル・メキシコ	(~18) ブラジルのガイゼルのメキシコ訪問。
1・15	エクアドル	新憲法に対する国民投票(43%の支持で採択)。
1・18	ペルー・エクアドル	ペルー政府、エクアドル軍がアマゾン国境のペルー守備隊を攻撃したと非難。
1・18	ブラジル	オランダ政府及びIAEA(国際原子力機関)との間で、核再処理の「安全保障」を結ぶことに合意。
1・19	アルゼンチン・チリ	ビーグル海峡をめぐる国境紛争解決のため、両国首脳会談(メンドサ)。
1・20	メキシコ	(~22) モンデール米副大統領、メキシコ訪問。
1・22	カリブ地域	第2回カリブ地域貿易・投資・開発会議開催(マイアミ)、米国との経済関係を討議。
1・23	ニカラグア	ソモサ(Anastasio Somoza Debayle)大統領退陣と民主化要求してゼネスト。
1・24	コロンビア	バランカベルメハの精油所労働者4千人が賃上げ要求してストライキ。
1・25	キューバ・メキシコ	(~29) マルミエルカ(Isidoro Malmierca)・キューバ外相メキシコ訪問。
1・25	ブラジル・ウルグアイ	(~27) ガイゼル・ブラジル大統領、ウルグアイ訪問。

1・25	アルゼンチン・チリ	ビーグル海峡問題、英国の仲裁をアルゼンチンが拒否、対立深まる。
1・30	パナマ	米上院外交委。新「パナマ運河条約」修正のうえ可決。(14対1)
1・31	ベールー	ギジェルモ・アルブル・ガジニアニ(Guillermo Arbulú Galliani) 将軍に代わり、新首相にモリナ・パロキア(Oscar Molina Pallochía) 統合参謀本部議長を任命。
2・1	ウルグアイ	陸軍総司令官にグレゴリオ・アルバレス(Gregorio Alvarez) 将軍が就任。
2・1	キューバ	ラウル・カストロ(Raúl Castro) 国防相、訪ソ。ブレジネフ書記長と会談。
2・2	ニカラグア	サンディーン民族解放戦線(FSLN)、南部二都市とコスタリカ国境障地を攻撃。
2・5	ニカラグア	統一地方選挙に63%が棄権。
2・5	コスタリカ	大統領選挙実施。結果は民主革新党ロドリゴ・カラソ(Rodrigo Carazo Odio) が当選。
2・12	パラグアイ	大統領および上下両院議員選挙。結果は、ストロエスネル(Alfredo Stroessner) 現大統領が五選。両院選挙は与党コロラド党が大勝。
2・14	ブラジル	ベトロブラス(ブラジル石油公社)、イランの石油開発事業から撤退。
2・14	エルサルバドル	人民革命軍(ERP-左翼系)、サンサルバドルのニカラグア大使館を爆破。
2・17	キューバ	米國務省、エチオピア派遣のキューバ兵5千人に達していると言明。
2・20	アルゼンチン・チリ	ビーグル海峡問題の和解のため、両国大統領議定書に調印(ブエルトモンテ)。
2・21	ニカラグア	マナグアおよびマタガルパで反ソモサデモ。
2・26	コロンビア	総選挙。結果は上院、自由党62議席、保守党49 共産党系UNO 1, 下院、自由党109、保守党86、UNO 4。
2・26	ニカラグア	マナグア南約40キロ、ディランパで反政府暴動。
2・27	パナマ	米上院本会議、新パナマ運河条約の修正提案棚上げを表決。
2・28	ベールー	48時間ゼネスト、200人逮捕される。
3・4	ブラジル	(~9)ガイゼル大統領、西ドイツ訪問。
3・5	グアテマラ	大統領選挙。結果は、規定得票率に達せず議会での表決でルカス・ガルシア(Romeo Lucas García) 将軍を選出。
3・9	ニカラグア	ソモサ政府の実力者レイナルド・ベレス・ベガ(Reinaldo Pérez Vega) 将軍、FSLNに暗殺される。
3・9	チリ	ピノチェト(Augusto Pinochet Ugarte) 大統領、4年半ぶりに戒厳令解除。

3・10	パナマ	米上院で、パナマ運河条約の最初の修正案通過（84対5）。
3・12	エルサルバドル	国会議員選挙で与党PCN勝利。
3・13	パナマ	米上院にて二番目のパナマ運河条約修正案通過（85対3）。
3・15	ペルー	政府、政治犯に対する特赦。
3・16	パナマ	米上院、パナマ運河「中立条約」を修正・可決（68対32）し、批准承認。
3・17	キューバ	（～21）マルミエルカ・キューバ外相、エチオピア訪問。
3・17	ボリビア・チリ	両国外交関係を断絶。
3・24	キューバ	キューバ・エチオピア共同コミュニケ発表。
3・28	ベネズエラ	（～29）カーター米大統領、ベネズエラを訪問し、ベレス(Carlos Andrés Pérez)大統領と会談。
3・29	ブラジル	（～31）カーター、ブラジルを訪問し、ガイゼル大統領と会談。
3・30	アルゼンチン	ビデラ(Jorge Rafael Videla)大統領、「軍民混合政体」構想を発表。
3・31	チリ	ピノチェト大統領、夜間外出禁止令を解除。
4・4	キューバ	PLOと相互協力協定に調印。
4・8	ブラジル	国家革新同盟(ARENA)は党大会で、フィゲイレードを大統領候補に指名。
4・12	チリ	内閣総辞職。
4・13	コスタリカ	ニカラグアのサンディニスタのリーダー、プルタルコ・エルナンデス・サンチョ(Plutarco Hernández Sancho)逮捕される。
4・14	チリ	文民主導内閣成立。内相 - セルヒオ・フェルナンデス(Sergio Fernández)、外相 - エルナン・クビジョス(Hernán Cubillos)はじめ文民11, 軍人5の割合。
4・18	パナマ	米上院、新パナマ運河条約を68対32で批准承認。
4・18	キューバ	（～24）マルミエルカ・キューバ外相訪ソ。
4・19	チリ	ピノチェト大統領、全政治犯の釈放または国外追放を発表。
4・25	コスタリカ	ロドリゴ、新大統領に就任。
4・27	アルゼンチン・ブラジル・ウルグアイ	（～28）三国間でパラナ川の水力エネルギー利用に関する会議を開催。
4・29	メキシコ	第10回IMF総務会暫定委員会、メキシコ市にて開催。
5・3	メキシコ	メキシコ共産党、公式登録認可される。
5・3	コスタリカ	全米熱帯まぐろ条約脱退。
5・8	キューバ	（～12）オパンゴ・コンゴ大統領、キューバ訪問。
5・8	ペルー	（～7・27）小・中学校教師10万人スト。
5・8	コロンビア	都市交通値上げに抗議して各地で反政府スト続発。（・15）ボゴタでのスト、100人逮捕。（・18）60万人の公務員スト。
5・10	ペルー	政府、財政赤字と国際収支改善を目的とした新経済緊縮政策を発

		表。通貨を7.1%切下げ。
5・15	キューバ	(~20) 非同盟関係レベル会議開催(ハバナ)。
5・15	ペルー	内閣改造。経済財政相 - シルバ・ルエテ (Javier Silva Ruete) アンデス開発公社副総裁、商工業観光統合相 - ラナタ・ピアジョ (Gabriel Lanatta Piaggio)、内相 - ベリト・サバチーニ (Fernando Velit Sabattini) 陸軍少将。
5・15	ペルー	緊縮政策による物価引上げに対し、各地で反対スト続発。
5・16	ドミニカ共和国	大統領、上下両院議員選挙。結果は野党ドミニカ革命党の勝利。大統領には同党のアントニオ・グスマン (Antonio Guzmán) が選出。
5・16	ニカラグア	米政府、ニカラグアへの経済援助(1'200万ドル)再開。
5・17	メキシコ	(~25) ロベス・ポルティージョ (José López Portillo) 大統領訪ソ。ソ連、「ラテンアメリカ非核地域条約」参加を表明。
5・17	エルサルバドル	松本不二雄インシンカ社社長、FARNに誘拐される。
5・17	ドミニカ共和国	軍部、大統領選開票に対し中止命令。
5・18	キューバ	カストロ (Fidel Castro) 首相、米代表と接触し、ザイールでの参戦を否定。
5・18	ラテンアメリカ	ソ連、「ラテンアメリカ非核地域条約」議定書に調印。
5・19	ペルー	モラレス (Francisco Morales Bermúdez) 大統領、全国に戒厳令。
5・22	ペルー	(~23) ペルー労働総同盟 (CGTP) 物価引上げに抗議してゼネスト指令。
5・25	ペルー	政府、ロドリゲス・フィゲロア (Leonidas Rodríguez Figueroa) 元 SINAMOS 長官、農民運動指導者ウーゴ・ブランコ (Hugo Blanco) を含む反政府派17人を追放。
5・25	メキシコ	メキシコ・ソ連共同コミュニケ。
5・25	キューバ	カーター米大統領、アンゴラと共にキューバを「ザイール攻撃に重大な責任がある」と非難。
5・26	キューバ	中国政府、「キューバはソ連の手先である」と非難。
5・29	グアテマラ	北部パンソスで、土地改革を要求する農民と軍隊が衝突、約60人が死亡。
6・1	コロンビア	与党自由党国会議員カリジョ・モレノ (Heliodoro Carillo Moreno) 左翼ゲリラに誘拐される。
6・4	コロンビア	大統領選挙。結果は与党自由党ツルバイ (Julio César Turbay Ayala) が対立候補保守党ベタンクール (Belisario Betancur) を2,506,228票対2,358,644票で破る。
6・6	キューバ	黒人独立国レトと国交樹立。
6・8	ペルー	政府、制憲議会選挙の実現を期し、非常事態宣言を解除。
6・9	アルゼンチン	中国と3年間の貿易協定を締結。

6・9	チ	リ	政府、米国人権擁護委員会のグループの入国に同意。(・12) チリ入国。					
6・10	パ	ナ	マ	10万人の反パナマ運河条約集会在、パナマ市で開催。				
6・13	キ	ユ	ー	バ	カストロ首相、米議員と会談。カーター大統領と会談の用意あると表明。			
6・14	パ	ナ	マ	カーター米大統領のパナマ訪問を前に、運河条約をめぐるパナマ大学で銃撃戦。				
6・16	パ	ナ	マ	カーター米大統領、パナマ市に到着。パナマ-米国間で新パナマ運河条約批准書交換。				
6・18	ベ	ル	ー	制憲議会選挙。結果は、100議席のうちアブラ党(中道)37、キリスト教人民党(右派)25、FOCEP(左派)12、同日、社会革命党リーダー、ロドリゲス・フィグロア將軍アルゼンチンに追放される。				
6・18	ブ	ラ	ジ	ル	サンパウロで日本移民70周年記念式典開催。			
6・21	ニ	カ	ラ	グ	ア	ソモサ大統領、訪米。		
6・21	米			州	(~71) 第8回OAS総会開催(ワシントン)。歓迎演説でカーター米大統領、人権政策を強調。			
6・22	米			州	OAS総会出席の8ヶ国(アルゼンチン、ボリビア、コロンビア、チリ、エクアドル、パナマ、ペルー、ベネズエラ)、ラテンアメリカ地域の軍縮に関するアヤクチョ宣言を再確認。			
6・23	チ			リ	米政府、ランダウ駐チリ大使に召還命令。			
6・23	ブ	ラ	ジ	ル	ガイゼル大統領、軍政令第5号の撤廃を含む政治改革案を発表。			
6・26	パ	ナ	マ	国際捕鯨委年次会議、パナマ提案の捕鯨全面禁止案を議案にしないことを決定。				
7・3	ラ	テ	ン	ア	メ	リ	カ	アマゾンの資源開発と環境保護を目的とするアマゾン協力条約に関係8ヶ国(ブラジル、ベネズエラ、コロンビア、ガイアナ、スリナム、エクアドル、ペルー、ボリビア)が調印(ブラジリア)。
7・7	パ	ラ	グ	ア	イ	真正急進自由党副委員長ドミンゴ・ライノ(Domingo Laíno)逮捕される。		
7・8	ウ	ル	グ	ア	イ	ロビラ(Alejandro Rovira)外相辞任、後任にフォジェ・マルティネス(Adolfo Folle Martínez)元イタリア大使。		
7・9	ボ	リ	ビ	ア	大統領選挙。ペレダ(Juan Pereda Asbún)將軍が勝利したが、不正があったと告発される。			
7・12	カ	リ	ブ	地	域	(~24) 耿中国副首相、トリニダードトバゴ、ジャマイカ、ガイアナ訪問。		
7・16	エ	ク	ア	ド	ル	民政移管の大統領選挙。「人民勢力結集(CFP)」のロルドス(Jaime Roldós)と右派連合のドゥラン(Sixto Durán Ballén)の間で争われたが、規定得票に達せず、(ロルドス355,000票、		

		ドゥラン 259,000 票) 決戦投票に。
7・17	アルゼンチン	(~28) ブエノスアイレスにおいて、南極条約国特別会議開催。
7・18	米州	米州人権協定、グレナダが批准し、発効。
7・19	ボリビア	選挙管理委員会、7月16日選挙に不正があったとして無効を宣告、180日以内に再選挙。
7・19	ニカラグア	反ソモサ勢力FAO(広範な反政府戦線)24時間ゼネストを呼びかける。
7・20	ブラジル	ブラジル政府、中国との間に鉄鉱石と石油のバーター協定を北京で調印。
7・20	ニカラグア	国家警備隊本部にロケット砲2発が撃ち込まれる。
7・21	ボリビア	バンセル(Hugo Bánzer Suárez)大統領辞任。軍事評議会、ベレダ將軍を大統領に任命。
7・23	ボリビア	主要政党、クーデターによる軍事政権に不支持表明。
7・24	ボリビア	新内閣成立。構成は文民12, 軍人3
7・24	チリ	軍事評議会はレイ(Gustavo Leigh)空軍司令官を解任、後任にマテイ(Fernando Matthei)將軍を任命。
7・24	キューバ	PLOアラファト議長、キューバ訪問。
7・25	チリ	レイ司令官に同調して、空軍將軍21人のうち19人が辞任。
7・25	ボリビア	ベレダ政権に反対する農民による武装反乱。
7・25	世界	非同盟諸国外相会議開催。キューバのアフリカ派兵をめぐり対決色(ベオグラード)。
7・26	キューバ	カストロ首相、キューバ人民蜂起25周年記念大会で、米・中を非難。
7・28	ペルー	制憲議会召集。議長APRAのアヤ・デ・ラ・トーレ(Víctor Raúl Haya de la Torre)。
7・30	世界	非同盟諸国外相会議、ベオグラード宣言採択して閉幕。次期首脳会議、ハバナ開催確認。
7・30	パナマ	国際捕鯨委員会(IWC)から脱退。
7・31	アルゼンチン	ビデラ大統領、兼任していた陸軍総司令官のポストをビオラ(Roberto Viola)参謀総長に譲り退役。
8・1	チリ	米連邦大陪審、オルランド・レテリエル(Orlando Letelier)元外相、元駐米チリ大使殺害容疑で、コントレラス(Juan Manuel Contreras Sepúlveda)元チリ秘密警察長官、エスピノサ(Pedro Espinoza)同作戦部長等を起訴。
8・3	コロンビア	ロベス・ミチュルセン(Alfonzo López Michelsen)大統領、経済水域を沿岸200カイリに拡大する法律に署名。
8・3	チリ	マグニチュード7の大地震発生。
8・4	ボリビア	米国、ボリビアのベレダ政権を承認。

8・6	パナマ	国会議員選挙。政府系候補圧勝。
8・7	ベル	政府、IMFと総額2億2千万ドルのスタンバイ借款協定合意。
8・7	ホンジュラス	軍部右派による無血クーデターが成功。メルガル(Juan Alberto Melgar Castro) 国家主席が辞任し、バス・ガルシア(Policarpo Paz García) 陸軍司令官ら軍指導者3人で構成する軍事評議会が実権。
8・7	コロンビア	ツルバイ新大統領に就任。主要閣僚は、内相ーセア(Germán Zea Hernández - 自由党)、外相ーリエバノ(Indalecio Liévano Aguirre - 自由党)、蔵相ーガルシア(Jaime García Parra - 保守党)、国防相カマチョ(Luis Carlos Camacho Leyva) 將軍、経済開発相ーバジェホ(Jesús Vallejo - 自由党)、法相ーエスカバル(Hugo Escobar Sierra - 保守党)。
8・10	エルサルバドル	コーヒー富豪モネデロ(Armando Monedero) サンタアナで人民革命軍(ERD)に誘拐される。
8・14	エルサルバドル	スウェーデン系電話会社エリクソン社社長シエル・ビョルク(Kjell Bjoerk) FARNに誘拐される。
8・15	パラグアイ	ストロエスネル、大統領就任。
8・16	ドミニカ共和国	グスマン、大統領就任。
8・18	キューバ	キューバ、米国間定期航空便、16年ぶりに再開。
8・21	ベル	政府、鉱山における賃上げストに対し鉱山地区に非常事態宣言。
8・22	ニカラグア	マナグアの国家殿堂にサンディノ民族解放戦線(FSLN)のゲリラ25人侵入し、国会議員、政府関係者を人質に全政治犯の釈放、身代金、飛行機の用意を要求。
8・24	ニカラグア・パナマ	FSLNのゲリラ、パナマ到着。パナマ政府、亡命を承認。
8・25	ニカラグア	FAOの呼びかけでソモサ退陣を求めるゼネスト、マナグアで発生。
8・28	ニカラグア	国家防衛隊内部で政府転覆計画発覚、指揮官ら85人逮捕。
8・28	パナマ・グアテマラ	両国国交再開。
8・29	ニカラグア	空軍機、反ソモサ派拠点都市を爆撃。
8・29	ブラジル	野党ブラジル民主運動(MDB)、モンテイロ(Euler Bentes Monteiro) 將軍を大統領候補に指名。
8・30	アルゼンチン	「国連開発途上国間技術移転会議」が、ブエノスアイレスで開幕。
8・31	キューバ	政府、政治犯48人とその家族の米国移住承認。
8・31	ニカラグア	第3の都市マタガルパで国警隊と反ソモサ派学生が衝突、死傷者数百名。
8・31	コロンビア	反政府運動に対し治安法制定(9.6発効)。
9・1	パナマ	オマル・トリフォス(Omar Torrijos) 將軍、国家主席を辞任。国警軍司令官としては留任表明。
9・1	チリ	政府、チュキカマタ銅山に対し戒厳令発動。

9・8	ラテンアメリカ	ラテンアメリカ23ヶ国出資による同地域最初の輸出銀行(Banco Latinoamericano de Exportaciones.S.A.) パナマに設立。
9・9	キューバ	(~11) スペインのアドルフォ・スアレス(Adolfo Suárez)首相、キューバ訪問。カストロ首相にスペイン訪問を招請。
9・9	ニカラグア	FSLN、マナグア、レオン、マサヤなどの主要都市で政府軍と戦闘状態に入る。
9・10	ニカラグア	FSLN、第2の都市レオン市全域を支配下に置く。
9・12	キューバ	カストロ首相、エチオピア(~18)、リビア(~19)、アルジェリア(~20)訪問。
9・12	コロンビア	前ミCHELSEN政府内相バルド・ブエルバス(Rafael Pardo Buelvas)左翼ゲリラに暗殺される。
9・13	ニカラグア	政府、全土に30日間の戒厳令布告。
9・15	ベネズエラ・ コスタリカ	両国、相互防衛協定に調印。
9・16	ペルー	内閣一部改造。商工業・観光・統合相にドボア(Jorge Dubois Gervasi)海軍少将、教育相にグアブロチェ(José Guabloche Rodríguez)陸軍少将などが就任、民間人は3人から2人に。
9・16	エルサルバドル	前国会議長アルフォンソ・ロドリゲス(Rubén Alfonso Rodríguez)人民解放戦線(FPL)のメンバーにより暗殺される。
9・17	ニカラグア	政府、ベネズエラ、コスタリカに対し自国領攻撃に参加したと非難。
9・19	コロンビア	国連総会議長にコロンビアのリエバノ外相が選出され、後任にウリベ(Diego Uribe Vargas)が任命。
9・20	チリ	米国政府、レテリエル殺害容疑者3人の引渡しを、チリ政府に要求。
9・21	米州	(~23) OAS外相会議開催(ワシントン)。ニカラグア紛争解決の国際調停提案される。
9・21	ブラジル	連邦議会、軍政令第5号廃止法案を可決。
9・22	ニカラグア	国内に反ソモサ派「12人グループ」による臨時政府樹立。
9・22	エクアドル	7月16日の大統領選挙における不正に関連して中央選挙管理裁判所の全メンバー辞任。
9・25	ニカラグア	ソモサ大統領、反政府勢力との直接交渉を呼びかけたカーター米大統領の提案受入れを発表。
9・26	コスタリカ・ニカラグア	コスタリカ内務省、ニカラグアとの国境を30日間閉鎖。
9・26	ニカラグア	政府、約350人の政治犯釈放を指令したと発表。
9・29	パラグアイ	自由党指導者バスターレ(Carlos Pastore)、反政府戦線結成のかどで国外追放される。
10・2	ブラジル	アブレウ(Hugo Abreu)将軍、反フィゲイレード工作のかどで逮捕される。

10・4	ブラジル	(~7) ジスカールデスタン仏大統領、ブラジル訪問。
10・4	エルサルバドル	FARNに誘拐されていた松本インシンカ社長、遺体で発見。
10・5	エクアドル	再組織された中央選挙管理裁判所は、大統領決戦投票を1979年4月8日に実施すると発表。
10・6	ニカラグア	ニカラグア内紛に対し、ドミニカ共和国、グアテマラ、米国で構成される調停委員会、マナグアで調停工作。
10・11	パナマ	国会における正副大統領選挙。対立候補なく大統領にロヨ(Arístides Royo)、副大統領にデ・ラ・エスプリエジャ(Ricard de la Espriella)が選出され、ただちに就任式。
10・11	コロンビア	下院、副大統領にバルカサル(Gustavo Balcazar Monzon - 自由党)を選出。
10・12	パナマ	ロヨ大統領組閣。内相 - アウマダ(Adolfo Ahumada)、外相 - オソレス(Carlos Ozores)、蔵相 - ペレス・パジャダレス(Ernesto Pérez Valladares)。
10・15	ブラジル	大統領選挙。その結果、与党ARENA候補フィゲイレート陸軍大将が当選。
10・22	メキシコ	前大統領エチェベリア(Luis Echeverría)、オーストラリア大使に任命される。
10・23	ペルー	第2次の物価値上げに抗議する学生と警官隊衝突。
10・24	メキシコ	(~30) ロベス・ポルティージョ大統領、訪中。華国鋒主席と会見。
10・27	コロンビア	4人の最高裁判事、治安法が憲法ならびに国連人権宣言に違反していると言明。
10・30	メキシコ	(~11・4) ロベス・ポルティージョ大統領来日。
11・2	メキシコ	日本・メキシコ共同コミュニケ発表。
11・2	メキシコ	タバスコ州天然ガス・パイプライン建設現場で大爆発、52人死亡。
11・2	アルゼンチン・チリ	ビーグル海峡問題、両国が合意文書に調印。
11・3	アルゼンチン	内閣改造。内相 - アルギンデグイ(Albano Eduardo Harguindeguy) 蔵相 - マルティネス(José Martínez de Hoz)以上留任。外相 - パストル(Carlos Washington Pastor)、法相 - ロドリゲス・バレラ(Alberto Rodríguez Varela)。
11・3	ドミニカ連邦	英自治領ドミニカ、ドミニカ連邦として独立。首相はパトリック・ジョン(Patrick R. John)。
11・4	ペルー	政府と債権国間で、債務支払いについてパリで再交渉。
11・9	アルゼンチン・チリ	アルゼンチン、ビーグル海峡問題でチリが提案した第三者調停案に同意声明。
11・9	ニカラグア	カーター米大統領、記者会見でソモサ退陣やむなしとの意向を示唆。

11・13	メキシコ	メキシコ石油公社 (PEMEX) タンピコ地方で推定埋蔵量1千億バレルの新油田発見したと発表。
11・12	キューバ	砂糖無償援助を含むキューバ・ベトナム援助協定調印。
11・15	ブラジル	上下両院議員選挙。与党ARENA辛勝。野党MDB都市部で躍進。下院、ARENA-225議席、MDB-195、上院ARENA-12、MDB-8。
11・15	キューバ	米國務省、ソ連製ジェット戦闘機ミグ23がキューバに配備されているとの報道に対し、1962年の米ソ間了解に反するかどうか検討中と声明。
11・17	ニカラグア	FSLN、コスタリカ国境からニカラグア侵入し、政府軍と戦闘。
11・17	ラテンアメリカ	(~30) スペイン国王ファン・カルロス1世 (Juan Carlos I)、ラテンアメリカ歴訪。(・17~22) メキシコ、(・22~26) ペルー(・26~30) アルゼンチン。
11・18	ガイアナ	米国の新興宗教団体「人民の寺院」の集団自殺事件、ガイアナの首都ジョージタウンの入植地で発生。死者は914人にのぼる。
11・21	コスタリカニカラグア	コスタリカのカラソ大統領、ニカラグアとの外交・通商関係の断絶を発表。
11・22	キューバ	カストロ首相、記者会見で政治犯3千人以上を釈放するとの意向表明。
11・24	エルサルバドル	オランダのエルサルバドル・フィリプス社総支配人フリッツ・スハイトマ (Fritz Schuitema)、FARNに誘拐される。
11・24	ボリビア	軍事クーデターによりベレダ大統領失脚。パディジャ (David Padilla Arancibia) 陸軍総司令官が大統領に就任。
11・29	メキシコ	メキシコ市とメキシコ南部にマグニチュード7.9の大地震発生。
11・30	エルサルバドル	FARN、フィリップ社に対し、34ヶ国の主要新聞に声明文掲載を要求。(日本では12月2日日本経済新聞夕刊に掲載)。
11・30	キューバ	カーター米大統領、記者会見でキューバに対するソ連のミグ23供与問題で「キューバに核兵器がある証拠は全くない」と言明。
11・30	ニカラグア	ソモサ大統領、OASの三国調停案(大統領の進退を国民投票に付す)を条件つきで受諾。
12・3	ベネズエラ	大統領選挙。野党キリスト教社会党 (COPEI) 候補 エレラ・カンピンス (Luis Herrera Campins) が、与党民主行動党 (AD) 候補ピネェルア・オルダス (Luis Piñerúa Ordaz) を232万票 (46.7%) 対216万票 (43.3%) で破る。
12・7	エルサルバドル	インシンカ社鈴木孝和経理担当重役、FARNに誘拐される。
12・7	ニカラグア	ソモサ大統領、戒厳令の即時停止と全政治犯の特赦を発表。
12・8	キューバ	カストロ首相と亡命キューバ代表との間で、約3千人の政治犯釈放と亡命キューバ人の無期限キューバ訪問を認める協定調印。

12・11	チリ・アルゼンチン	クビジョス外相ビーグル海峡紛争解決のため、アルゼンチン訪問。
12・18	メキシコ	PEMEX, 石油価格を1月1日以降4.5%引上げると発表。
12・18	ドミニカ連邦	国連加盟承認。
12・21	コロンビア	作家ガルシア・マルケス(Gabriel García Márquez)、コロンビアおよび世界の政治犯釈放のためメキシコに本拠をもつ人権擁護組織設立。
12・26	チリ	内閣の一部改造。労相ーピネラ(José Piñera Echenique) サンチャゴ銀行頭取、経済相ーケリー(Roberto Kelly)、鉱業相ーキノネス(Carlos Quinones)など6閣僚が新任。
12・26	ラテンアメリカ	国連ラテンアメリカ経済委員会(ECLA)は報告書を発表、1978年の同地域の経済成長率が平均4.1%となり、前年を0.4%下回る見込みを明らかにした。
12・26	ニカラグア・コスタリカ	ニカラグア政府、コスタリカとの国境を無期限に閉鎖。
12・28	ジャマイカ	(~29) ジャマイカのラナウェーベイにおいてカナダ、ジャマイカ、ベネズエラ、ノルウェー、ナイジェリア、西ドイツ、オーストラリア各国首脳が集まり、南北問題について討議。

#### 参考資料

- (1) イベロアメリカ研究所新聞切り抜き。
- (2) *Latin America 1978*, Facts On File, N.Y., 1979.
- (3) *Almanaque Abril 1979*, Editora Abril, S.P., Brasil.
- (4) *Latin America Political Report* (weekly), Latin American Newsletters Ltd., London.
- (5) 『国際問題資料』(特集号-1978年国際情報日誌-)、外務省情報文化局、1979年2月。

# Sophia-R

Sophia University Repository for Academic Resources

Title	資料 ラテンアメリカ日誌 : 1979年
Author(s)	
Journal	イベロアメリカ研究, 3(1)
Issue Date	1981-04-10
Type	紀要/Departmental Bulletin Paper
Text Version	出版者/Publisher
URL	<a href="http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/17511">http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/17511</a>
Rights	



上智大学  
Sophia University

<http://www.sophia.ac.jp>

ラテンアメリカ日誌—— 1979年——

月 日	国 名	記 事
1・ 1	ブ ラ ジ ル	マットグロッソ州が二分割され、南マットグロッソ州誕生。
1・ 5	ペ ル ー	軍事政権、9日から予定されている72時間ゼネスト弾圧のため全土非常事態宣言を発令。
1・ 5	グ ァ ド ル ー プ	(～6)米(カーター大統領)、英(キャラハン首相)、仏(ジスカールデスタン大統領)、西独(シュミット首相)首脳会談開始(サン・フランソワ)。
1・ 7	キ ュ ー バ	ワルトハイム国連事務総長キューバ訪問。
1・ 8	アルゼンチン・チリ	アントニオ・サモーレ(Antonio Samore)ローマ法王特使の調停により、ビーグル海峡問題に関する二協定にカルロス・パストール(Carlos Pastor)アルゼンチン外相、エルナン・クビジョス(Hernán Cubillos)チリ外相及びサモーレ特使が署名(モンテビデオ)。
1・12	メ キ シ コ	米ヒューストン・オイル・&・ミネラルズ社、メキシコ湾で天然ガス発見。
1・15	パナマ・ベネズエラ	パナマの国家指導者オマール・トリホス(Omar Torrijos)、ニカラグア問題協議のためベネズエラ訪問。
1・15	ボ リ ビ ア	パディジャ(David Padilla Arancibia)内閣総辞職(16日、一部改造の上、再発足)。
1・16	エルサルバドル	(～17)サンサルバドルで数十人の反政府左翼武装ゲリラが、メキシコ大使館、OAS事務所、エルサルバドル赤十字社を占拠。17日、人質を解放し、メキシコへの政治亡命を認められる。
1・17	ニカラグア・コスタリカ	ニカラグア、コスタリカとの国境を閉鎖。
1・18	エルサルバドル・メキシコ	エルサルバドルのロメロ(Carlos Humberto Romero)大統領、メキシコ訪問。
1・19	ブ ラ ジ ル	次期大統領ジョアン・バプティスタ・フィゲイレード(João Baptista Figueiredo)将軍、新政権の閣僚名簿と施政方針発表。 新政権の主要閣僚 法相エドワルド・ポルテラ(Eduardo Portella) 外相ラミーロ・ゲレイロ(Ramiro Guerreiro) 蔵相リシュビエテル(Karlos Riechsbierter) 農相アントニオ・デルフィン・ネット(Antonio Delfim Netto) 企画相マリオ・エンリッケ・シモンセン(Mário Henrique Simonsen) 内務相マリオ・ダビド・アンドレアザ(Mário David Andrezza) 商工相カミロ・ペーナ(Camilo Pena) 鉱山動力相セザル・カルス(Cesar Cals)

1・20	ペルー・チリ	ペルー軍事政権、ペルー駐在チリ大使を国外追放。
1・20	スリナム	イラクとの外交関係樹立。
1・20	エルサルバドル	国家警備隊がサンサルバドル北部サンアントニオアバドで、左翼ゲリラのアジトを急襲、テロリストとみられる4人を射殺、1人を逮捕。
1・23	キューバ	(～28) ネット・アンゴラ大統領一行、キューバ訪問。
1・25	ドミニカ共和国・メキシコ	ローマ法王ヨハネ・パウロ2世、ドミニカ共和国(～26日)及びメキシコ(26～31日)訪問。
1・25	グアテマラ	前首相アルベルト・フエンテス・モール(Alberto Fuentes Mohr)、ゲリラに銃殺される。
1・26	メキシコ	メキシコ市でM6.3の地震。
1・27	ラテンアメリカ	(～2・13) 第3回ラテンアメリカカトリック司教会議開会(プエブラ市)。
1・27	キューバ	キューバ・ポーランド共同コミュニケ(ワルシャワ)。
1・31	ペルー	モリナ・パロキア(O. Molina Pallochía)首相定年退役し、後任にリヒテル・プラダ(Pedro Richter Prada)陸軍参謀長兼統合参謀本部議長が就任。
2・8	ニカラグア	カーター米大統領、対ニカラグア援助の全面停止を発表。
2・14	メキシコ	(～16) カーター米大統領、メキシコ訪問。
2・16	メキシコ	アメリカ・メキシコ共同コミュニケ発表。
2・17	ブラジル	中国の石油化学使節団ブラジル訪問。
2・19	ブラジル	中国のブラジル経済調査団がウエキ(Shigeaki Ueki)鉱動相らと会談。
2・19	キューバ	キューバ共産党機関紙が、必要ならばベトナムへ軍事援助の用意があることを示唆。
2・19	アルゼンチン	中南米唯一の原子力発電国である同国政府、原子力発電4基の増設を決定。
2・20	キューバ	(～3・1) ラウル・カストロ(Raúl Castro)国防相を団長とするキューバ軍事代表団、ソビエト訪問。
2・22	セントルシア	英領セントルシア、セントルシアとして独立。
2・22	キューバ	キューバ共産党代表団、カンボジアを友好訪問。
2・28	メキシコ	(～3・3) ジスカルデスタン仏大統領、メキシコ訪問。
2・28	コロンビア・ベネズエラ	コロンビアのEl Tiempo紙が、過去6ヶ月間にベネズエラとの国境地帯で殺されたコロンビア人の移民労働者は最低400人にのぼると発表。
3・3	コスタリカ・パナマ	カラソ(Rodrigo Carazo)コスタリカ大統領とロヨ(Arístides Royo)パナマ大統領、相互協力について会談。
3・6	アルゼンチン	Renault工場の4500人以上の労働者が賃金値上げ要求のスト(コ

		ルドバ)。
3・6	ペ ル ー	軍事政権、今年1月5日に発令されていた非常事態宣言を解除。
3・6	ホ ン ジ ュ ラ ス	ストライキが警察と衝突の際、少なくとも3人の死者と多数の負傷者が出る。
3・10	ベ ネ ズ エ ラ	新政権の閣僚発表。 主要閣僚 内相ラファエル・モンテス・デ・オカ(Rafael Montes de Oca) 外相アルベルト・サンブラノ・ベラスコ(Alberto Zambrano Velasco) 国防相フェルナンド・パレデス・ベジヨ(Fernando Paredes Bello) 蔵相ルイス・ウゲト(Luis Ugueto) 鉱業動力相ウンベルト・カルデロン・ベルチ(Humberto Caldefon Berti)
3・12	ベ ネ ズ エ ラ	ルイス・エレラ・カンピンス(Luis Herrera Campins)氏、大統領に就任。
3・13	グ レ ナ ダ	無血クーデター。モーリス・ビショップ(Maurice Bishop)ニュー・ジュewel・ムーブメント(New Jewel Movement)党首がゲリー(Eric Gairy)首相の政府を打倒。
3・14	メ キ シ コ	南部でM 7.5の大地震。
3・15	ブ ラ ジ ル	フィゲイレード將軍の大統領就任式。
3・15	ペ ル ー	軍事政権、南部のモケグアおよびタクナの両県に非常事態宣言発令(両県で13日から労組が賃上げストに入ったため)。
3・18	メ キ シ コ	有望な新油田が発見されたと発表。
3・19	ブ ラ ジ ル	フィゲイレード大統領、初閣議で政治民主化政策推進を確言。
3・23	キューバ・チリ	キューバの右翼亡命者アルビン・ロス・ディアス(Alvin Ross Díaz)とギジェルモ・ノボ・サンボル(Guillermo Novo Sampol)、1976年のオルランド・リテリエル(Orlando Letelier)前チリ外相暗殺により終身刑の判決(ワシントン)。
3・24	ペルー・ボリビア	ペルー政府、ボリビアにペルーの2つの海港の使用の許可を発表。
3・30	バ ハ マ	イランのパーレビ国王バハマ入り。
3・30	エ ク ア ド ル	元大統領ホセ・マリア・ベラスコ・イバラ(José Maria Velasco Ibarra)氏心筋コウソクのため死去。
4・3	ブラジル・ペルー・ドミニカ共和国	(~11)シュミット西独首相、ブラジル、ペルー及びドミニカ共和国訪問。
4・3	メ キ シ コ	天然ガス輸入交渉のため米国交渉団一行メキシコ入り。
4・8	キ ュ ー バ	地方選挙(municipal elections)。
4・10	ブ ラ ジ ル	サンパウロ市の公務員が賃金アップを要求し、スト入りを決議。
4・11	ジャマイカ	マイケル・マンレイ(Michael Manley)首相、ブレジネフ(Brezhnev)書記長の招きでソビエト訪問。
4・12	ニカラグア	ニカラグア国家警備隊、F S L Nに占拠されているエステリ市奪還

4・13	英領 セントビンセント島	のため、全面攻撃を開始。 スーフリエール山が大爆発。
4・14	グレナダ・キューバ	グレナダ・キューバ間外交関係樹立。
4・18	ラテンアメリカ	(～26) 国連ラテンアメリカ経済委員会第18回総会(ラパス)。
4・23	ブラジル	サンパウロ州政府当局がスト参加者に厳重警告。
4・29	エクアドル	中道左派のハイメ・ロルドス・アギレル(Jaime Roldos Aguilera)氏(弁護士)、大統領当選。
5・1	チリ	メデーに、騒動を起したかどで総勢365人逮捕される。
5・4	エルサルバドル	(～9) 過激派「人民革命ブロック」、在サンサルバドル仏大使館及びコスタリカ大使館に侵入。両国大使ら計11人を人質。7日、人質全員自力脱出。9日、ゲリラのうち3人、政治亡命のためコスタリカ向け出国。
5・8	ニカラグア	小学生6万人が、小学生の男の子が校内で兵士に射殺されたことに抗議し、無期限ストに突入。
5・8	エルサルバドル	「人民革命ブロック」支援者達によるロメロ政権に対する大抗議集会(サンサルバドル中央大聖堂前。警備隊と撃ち合い死者22人。10日、追悼デモ(サンサルバドル市内))。
5・9	グレナダ	対北朝鮮外交関係樹立。
5・10	ブラジル	マセド(Macedo) 労相が続発するストで「労使協調路線」を強く訴え。
5・10	パナマ	4月26日からヨーロッパ諸国歴訪に出発したロヨ大統領、パナマ運河条約履行に関するカーター米大統領との2日間にわたる話し合いに入る(ワシントン)。
5・11	エルサルバドル	「人民革命ブロック」、サンサルバドルのベネズエラ大使館を襲撃し、大使ら7人を人質。20日、人質全員自力脱出。
5・11	エルサルバドル	政府、「人民革命ブロック」が釈放を要求している政治犯5人の中、2人を釈放。
5・14	チリ	政府、暗殺犯3人の米への引き渡しを拒否。
5・17	キューバ・メキシコ	(～18) カストロ(Fidel Castro) キューバ首相、メキシコ訪問。
5・18	キューバ・メキシコ	両国、共同コミュニケを発表。
5・18	ブラジル	イラク・ブラジル共同声明。
5・20	メキシコ・ニカラグア	メキシコのロペス・ポルティージョ(José López Portillo)大統領、ニカラグアとの外交断絶を発表。
5・20	コスタリカ・メキシコ	カラソ・コスタリカ大統領、ロペス・ポルティージョ・メキシコ大統領と会談(カンクーン・メキシコ)。
5・21	キューバ	(～22) マルフ・イラン副大統領、キューバ訪問。
5・21	メキシコ	(～6・1) 国連児童基金(UNICEF) 執行理事会(メキシコ市)。
5・22	米州	米州機構(OAS) 第7回特別総会開催(ワシントン)。

5・23	エルサルバドル	エレラ・レボジョ (Carlos Antonio Herrera Rebollo) 文相、左翼ゲリラにより暗殺される。臨時議会で30日間の非常事態宣言を承認。(24日、全国に実施)さらに1ヶ月延びて7月24日に解除。
5・26	ラテンアメリカ	(~28) アンデス諸国首脳会議。コロンビア、ベネズエラ、エクアドル、ペルー、ボリビア5ヶ国首脳が参加。各首脳、カルタヘナ合意書に署名(カルタヘナ)。
5・26	ブラジル	“開かれた政治”を目ざし、大統領府社会情報局を設置。同局の設立により国立通信社は内国通信公社と改称され、同局と直結する。
5・27	ブラジル	労働者のリーダー的存在のジョゼ・イブラヒム(José Ibrahim)が帰国。
5・30	エルサルバドル	ウーゴ・ウェイ(Hugo Wey)スイス臨時代理大使、射殺される(犯人不詳)。
5・31	キューバ	(~6・2) マルミエルカ(Isidoro Malmierca) 外相、西独訪問。
5・31	キューバ・スリナム	両国外交関係樹立。
6・1	エルサルバドル	「人民革命ブロック」が前日提示した条件をフランスの要請により政府が認めた結果、同ゲリラ、両大使館を解放し、人質を釈放、仏軍用機でパナマ着。
6・1	ブラジル	サンパウロ州、ミナス州など主要コーヒー生産地に降霜。
6・4	ベネズエラ	総選挙でキリスト教社会党が圧勝。得票率は野党民主行動党30.1%に対し、50.2%。
6・5	ニカラグア	サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)、同国第2の都市レオンを制圧。
6・6	ニカラグア	ソモサ(Anastasia Somoza Debayle) 大統領、全国に90日間の戒厳令施行。
6・7	コロンビア	ツルバイ(J. C. Turbay Ayala) 大統領、ILO会議出席のためスイス(ジュネーブ)、EC役員との会談のためベルギー(ブリュッセル)及びソ連、スペイン、ポルトガル、フランス、英国、メキシコ、プエルトリコの9ヶ国30日間に及ぶ歴訪に出発。
6・8	ニカラグア	FSLN、マナグア南東の都市マサヤを占領。9日、マナグアに戦火拡大。
6・9	ニカラグア	サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)、マナグアを攻撃(11日より市内で政府軍と交戦)。
6・10	ラテンアメリカ	ベネズエラとエクアドル両国外相、アンデス5ヶ国のニカラグア内戦調停特使としてそれぞれ両首都を出発。
6・11	ラテンアメリカ	汎米企業家会議開催(サンパウロ)。
6・14	ペルー・アルゼンチン	(~17) モラレス・ベルムデス(F. Morales Bermúdez) ペルー大統領、アルゼンチンを公式訪問。
6・14	キューバ	対レソト外交関係樹立。

6・14	ドミニカ共和国	前大統領ホアキン・バラゲル (Joaquín Balaguer) 帰国 (サントドミンゴ)。
6・16	ニカラグア	サンディニスタ民族解放戦線 (FSLN) を主力とする反ソモサ勢力、臨時政府「民族再建会議」の樹立を発表。
6・16	ラテンアメリカ	アンデス5ヶ国 (ベネズエラ、コロンビア、エクアドル、ペルー、ボリビア)、反ソモサ勢力を国際法にもとづく「交戦国」と認定。
6・17	ラテンアメリカ	ベネズエラのアンドレス・アギラル (Andrés Aguilar) が、米州人権委員会の議長に、ルイス・デメトリオ・ティノコ (Luis Demetrio Tinoco) が副議長に選出される。
6・17	エクアドル・ニカラグア	エクアドル政府、ニカラグアとの外交関係断絶を発表。
6・18	パナマ・ニカラグア	パナマ政府、ニカラグアとの外交関係を断絶。臨時政府を承認。
6・18	ニカラグア	米国、ニカラグアの反政府組織 FSLN を合法的な反政府勢力と承認。
6・18	ニカラグア	FSLN、「民族再建政治会議」結成を発表。
6・20	キューバ	対スーダン外交関係樹立。
6・21	米州	(～23) ニカラグア問題を討議するための米州機構 (OAS) 外相協議会特別会合開催 (ワシントン)。 23日、ソモサ政権の「即時、決定的退陣」を要求する決議を採択。 24日、ソモサ大統領、同決議を拒否。
6・21	ドミニカ連邦	議会、パトリック・ジョン首相を更迭、後任にオリバー・セラフィーン (Oliver Seraphine) 農相を指名。
6・22	ドミニカ連邦	議会における首相選出投票で、オリバー・セラフィーン (Oliver Seraphine) 前農相を新首相に選出。新大統領にジェンナー・アーマー (Jenner Armour) 氏が就任。
6・25	ブラジル・ニカラグア	ブラジル政府、ニカラグアとの外交関係を停止。
6・26	ペルー・ニカラグア	ペルー、ニカラグアとの外交関係断絶。
6・26	グアテマラ	織物工場の閉鎖に抗議するグアテマラ人労働者20人がメキシコ大使館を占拠、大使ら館員20人を人質にろう城。
6・27	ニカラグア・パナマ	ニカラグアの民族再建政治会議、パナマで現憲法廃止、三権分立による民主体制の確立、経済再建などの基本政策を公表。
7・1	メキシコ	3年ぶりに総選挙。 16日、与党の制度的革命党 (PRI) が圧勝。
7・1	ボリビア	民政移管のための大統領と議会の選挙。大統領選にはUDPのエルナン・シレス・スアソ (Hernán Siles Zuazo)、中道右派のビクトール・パス・エステンソロ (Víctor Paz Estenssoro)、退役軍人のウーゴ・バンセル (Hugo Bánzer) が立候補。
7・2	エルサルバドル	ゲリラの人質になっていた英国人銀行家2人、7ヶ月ぶりにサンサルバドル市内で解放。
7・10	ニカラグア	米国、ニカラグア臨時政府と直接交渉を開始。

7・12	ペル	新憲法発布。制憲議会議長アヤニデニラニトーレ (Víctor Raúl Haya de la Torre) が署名、代議員100名中30名が反対。
7・13	ラテンアメリカ	ニカラグアのソモサ大統領、グアテマラを訪問し、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラスの中米三国首脳と会談。
7・13	メキシコ	ニクソン米元大統領、メキシコ亡命中のパーレビ・イラン前国王の滞在先を訪問。
7・14	ニカラグア	臨時政府閣僚名簿発表。 内相トマス・ボルヘ (Tomás Borges) 蔵相ホアキン・クアドラ・チャモロ (Joaquín Cuadra Chamorro) 経済企画相ロベルト・コルテス (Roberto Mayorga Cortés) 中央銀行総裁アルツロ・クルス (Arturo Cruz)
7・15	ニカラグア	イラン政府、ニカラグアの民族再建評議会 (臨時政府) を承認。
7・15	メキシコ	元メキシコ大統領のグスタボ・ディアス・オルダス (Gustavo Díaz Ordaz) 氏死去。
7・16	ニカラグア	米政府、ニカラグアのFSLNによる臨時政府を支持する方針を発表。
7・16	エクアドル・キューバ	両国の領事及び貿易レベルの国交、18年ぶりに回復。
7・17	グアテマラ	アロンソ・リマ (Alonzo Lima) 外務次官、左翼ゲリラとみられるグループに誘かいされる。
7・17	ニカラグア	ソモサ大統領、国会に辞表提出、サンセット島の別荘に向う。 ニカラグア国会、後任大統領にフランシスコ・ウルクヨ (Francisco Urcuyo) 下院議長を選出。ウルクヨ大統領、サンディニスタ民族解放戦線に対し、武器を捨て、ニカラグア再建のため対話に入るよう要求。
7・18	ニカラグア	民族再建評議会、ニカラグア第二の都市レオンに臨時政府樹立。
7・18	ニカラグア・ グアテマラ	ウルクヨ臨時大統領、グアテマラへ亡命。
7・18	メキシコ・ニカラグア	ロベス・ポルティージョ・メキシコ大統領、ニカラグア民族再建政府と外交関係を樹立すると発表。
7・18	コスタリカ・ ニカラグア	コスタリカ政府、ニカラグアの民族再建政府を承認。
7・19	ニカラグア	国家警備隊、無条件降伏。FSLN、マナグア入城。
7・20	ラテンアメリカ	コロンビア及びボリビア、ベネズエラ、エクアドル、ペルーの5ヶ国、ニカラグア新政権をそれぞれ承認。
7・20	ニカラグア	民族再建評議会の5人のメンバー、マナグア入り。臨時政府樹立を正式に宣言。 セルヒオ・ラミレス (Sergio Ramírez) ビオレタ・デ・チャモロ (Violeta de Chamorro) アルフォンソ・ロベロ (Alfonso Robelo) モイセス・ハッサン (Moisés Hassan) ダニエル・オルテガ (Daniel Ortega)

7・22	ニカラグア	政府、FSLNがソモサ前政権打倒のため戦った52日間に約4万人のニカラグア人が犠牲になったと発表。
7・24	米州	米務省、米政府とニカラグア新政権との間で、外交関係継続を確認する覚書を24日交換した旨発表。
7・25	ニカラグア	ニカラグア民族再建政府（以下、政府と略す）、銀行その他の全金融機関の国有化を発表。
7・25	米州	米州機構常任理事会、米州緊急援助基金内にニカラグア援助特別勘定を開設することを決定。
7・26	キューバ・ニカラグア	キューバ人民蜂起26周年記念大会においてカストロ首相「ニカラグアは第二のキューバとならず、新生ニカラグアとなろう」と述べる。この式典にニカラグア政府代表（最初の公式使節団）、FSLN代表列席。
7・27	キューバ・ニカラグア	キューバとニカラグア新政権、外交関係樹立。
7・27	キューバ	米国、ソ連がキューバ駐留の兵力増強を行なっていることを明らかにする。
7・28	ニカラグア	旧国家警備隊に代わる「サンディニスタ人民軍（EPS）」の司令官に、FSLNの中心指導者ウンベルト・オルテガ（Humberto Ortega）ルイス・カリオン（Luis Carrion）、トマス・ボルヘ（Tomás Borge）が任命される。
7・30	ニカラグア	政府、ソモサとその協力者の土地・資産を農民に分配すると発表。
8・2	ペルー	アブラ（アメリカ革命人民同盟）の指導者アヤ・デ・ラ・トーレ（V́ctor Raúl Haya de la Torre）死去。
8・3	ニカラグア	英国、ニカラグア新政権を承認。
8・3	メキシコ	メキシコ市のスイス大使館が、「政治犯、政治的行方不明者、亡命者を守る独立全国委員会」のメンバー30人に占拠される。
8・5	ボリビア	民政移管を目指す大統領選、5日から6日未明にかけ議会で人民民主同盟のシレス氏と民族革命運動のパス・エステンソロ氏の間で行われ、いずれも過半数に達せず、6日夜、任期一年の暫定大統領として、ゲバラ・アルセ（Guevara Arze）上院議長を選出（8日就任）。
8・6	ブラジル・エクアドル	スアレス（Adolfo Suárez）スペイン首相、ブラジル訪問〔～8日。次いで、エクアドル訪問（8～12日。10日、ロルドス大統領就任式に参列。11日、キト宣言に署名）〕。
8・8	ラテンアメリカ	ラムスドルフ西独経済大臣、メキシコ、コロンビア、ベネズエラ、ブラジル、アルゼンチンを訪問（～29日）。
8・8	ニカラグア	政府、主要農産物（綿花、コーヒー、砂糖）輸出を国営化。
8・8	コスタリカ・ニカラグア	カラソ・コスタリカ大統領、ニカラグア訪問。
8・8	キューバ	ザイール・キューバ、外交関係再開。
8・10	ブラジル	シモンセン企画相が4度目の辞意表明。

8・10	エクアドル	ハイメ・ロルドス新大統領就任（9年ぶりに民主権が発足）。
8・10	ニカラグア・ エクアドル	ニカラグア新政権と米国との初めての外相会談（エクアドル）。
8・11	ラテンアメリカ	ベネズエラ、コロンビア、コスタリカ、エクアドル各大統領及びスアレス・スペイン首相、中南米全体の民主化を呼びかける「キト宣言」に署名（キト）。
8・13	ニカラグア	（～15）トマス・ボルヘ内相、キューバを訪問。
8・13	メキシコ	キッシンジャー前米国務長官、メキシコにパーレビ前イラン国王を訪問。
8・14	ブラジル	新企画相にデルフィン・ネット前農相を任命。
8・15	ブラジル	マセド労相、続発するストに対し、国家保安法適用を示唆。
8・17	ニカラグア	新聞・報道の自由、法令化。
8・18	パナマ・ニカラグア	パナマの国家指導者トリホス、ニカラグアを訪問。
8・19	コスタリカ	政府、駐サンホセ・ソ連大使館の外交官2人に「騒乱に関与した疑い」の理由で国外退去を言い渡す。
8・19	ニカラグア	ソモサ前大統領、家族、随員とともに、パラグアイのアスンシオン着。
8・21	メキシコ	政府、アムネスティに919人の政治犯の釈放を発表。
8・21	アルゼンチン	ソビエトの軍事使節団、アルゼンチン訪問。
8・21	ニカラグア	権利憲章布告（全111条）。人権尊重、法の下での平等、死刑廃止を規定。議会召集まで、憲法として効力。
8・22	ブラジル	政治犯特赦令の政府原案が国会通過、大統領の批准待ち。
8・25	キューバ・エクアドル	両国の外交関係復交。
8・27	キューバ	政府、同国で開かれる非同盟諸国首脳会議まぎわに400人の政治犯を釈放。
8・30	キューバ	チトー・ユーゴスラビア大統領とカストロ・キューバ首相会談。
8・30	キューバ	チャーチ米上院外交委員長、キューバにソ連戦闘部隊が存在する旨発表。
9・1	ニカラグア	政府、民族再建を目的とする7つの法令を布告。天然資源の民族主権、ニカラグア天然資源・環境局設置、通貨（コルドバ）の対ドル・レート10対1に固定、等々を明記。
9・3	世界	（～9）第6回非同盟諸国首脳会議（ハバナ）。9日、最終宣言等を採用。
9・3	ベネズエラ	“OPECの父”と言われたペレス・アルフォンソ（Juan Pablo Pérez Alfonzo）前石油相、癌のため死去（ワシントン）。
9・4	ニカラグア	ベトナムとニカラグア、外交関係樹立。
9・5	キューバ	パンス米国務長官、2000～3000名から成るソ連戦闘部隊がキューバに駐留していることを確認するとともに、本件に関しソ連側と接衝する旨発言。

9・5	キューバ	キューバとルワンダ、外交関係樹立。
9・6	キューバ	キューバとヨルダン、外交関係樹立。
9・6	アルゼンチン	OAS人権擁護委員会代表団、アルゼンチン入り。
9・7	キューバ	カーター大統領、ソ連戦闘部隊のキューバ駐留について特別声明を発表、事態の改善についてソ連に対し確固たる外交姿勢で臨む決意を表明。
9・7	グレナダ	ソ連・グレナダ外交関係樹立。
9・10	キューバ	バンス米国務長官、ソ連戦闘部隊のキューバ駐留問題に関しドブレイン・ソ連大使と会談を開始。
9・12	ラテンアメリカ	ファム・バン・ドン(Pham Van Dong)ベトナム首相、第6回非同盟諸国首脳会議に出席の帰途、メキシコ、ニカラグア、パナマ、ジャマイカ、キューバ(立寄り)、ソ連、イラク、ソ連(サマルカンド)訪問(～10月3日)。
9・16	ブラジル	元ブラジル共産党の指導者ミゲル・アラエス(Miguel Arraes)元ペルナンブコ州知事が亡命先のパリから帰国。
9・17	パナマ	政府、カンボジアのヘン・サムリン新政権を承認。ソ連、東欧諸国以外の同国承認はパナマが初めて。
9・17	キューバ	政府、米国籍の政治犯4人釈放。
9・24	メキシコ	(～25)ロペス・ポルティージョ大統領、メキシコ人移民問題を主にカーター米大統領と会談。
9・24	キューバ	バンス米国務長官とグロムイコ・ソ連外相、ソ連戦闘部隊のキューバ駐留問題等について会談(ニューヨーク)。
9・24	ニカラグア	ニカラグアの三人の再建評議会メンバー、国連総会出席のため訪米。カーター大統領と会見。
9・25	パナマ	米上院本会議、パナマ運河の返還に関する移行措置の細目を定めた国内法案を63対32で可決(26日、米下院本会議、同法案を232対188で可決)。
9・27	パナマ	カーター米大統領、パナマ運河新条約関連国外法案に署名。
9・28	キューバ	カストロ首相、ソ連戦闘部隊がキューバに駐留したいとの米側の非難を否定。また「第12訓練センター」にソ連部隊がいることを初めて明らかにした。
9・29	アルゼンチン	ロベルト・ビオラ(Roberto Viola)陸軍最高司令官、陸軍第三軍団のルシアノ・ベンジャミン・メネンデス(Luciano Benjamín Menéndez)司令官およびホルヘ・マラドナ(Jorge Maradona)副司令官を陸軍内部の統一維持のために解任したと発表。
9・29	メキシコ	米国・メキシコ共同声明発表。
9・29	ドミニカ共和国	アントニオ・グスマン(Antonio Guzmán)政権の転覆を図った35人を26日の15人に加えて新たに逮捕。

10・1	キューバ	<p>カーター米大統領、ソ連軍のキューバ駐留への米国独自の対応策として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① キューバ偵察の強化</li> <li>② 駐留部隊が米国及び近隣諸国の安全を脅かす恐れがあれば、米国は近隣諸国に援助すること</li> <li>③ カリブ海共同機動部隊本部の新設</li> <li>④ カリブ海地域での機動演習の拡大とグアタンタモモ海軍基地の維持</li> <li>⑤ 同地域諸国に対する経済援助の増大</li> </ol> <p>などの方針を明らかにする。</p>
10・1	パナマ	パナマ運河新条約発効。
10・1	チリ	最高裁、76年のレテリエル氏暗殺事件の3人の犯人の米国への引き渡しを拒否する最終判決。
10・2	ラテンアメリカ	アンデス5カ国首脳（ボリビア、コロンビア、ペルー、ベネズエラは大統領、エクアドルは外相）、「平和基金」の設立を盛りこんだパナマ議定書に署名（パナマ）。
10・2	ブラジル	大学自治会の連合組織を非合法団体とする大統領令発布。
10・5	キューバ	米国、昨年11月以来中止されていたキューバ偵察を再開。
10・10	キューバ	上陸演習作戦に参加の米海兵隊、キューバへ。
10・11	キューバ	カストロ・キューバ首相、国連総会に出席のため訪米（～14日、12日、国連総会で演説）。
10・11	コロンビア・ベネズエラ	両国海上貿易に関する交渉の第一回会談終了（メデリン）。
10・13	カリブ海	カーター政権、カリブ海におけるキューバ、ソ連の活動に対抗するため、米・英・カナダなどが参加した「カリブ海合同パトロール軍」の設置を検討。
10・15	エルサルバドル	一部軍部による無血クーデター発生。アドルフォ・アルノルド・マハノ(Adolfo Arnaldo Majano)、ハイメ・アブドル・グティエレス(Jaime Abdul Gutiérrez) 両大佐が指導する革命評議会発足。
10・16	ブラジル・ペルー	ブラジル政府、ペルーとの間で相互経済協力関係維持を確認。
10・16	エルサルバドル	15日、ロメロ独裁政権を無血クーデターで倒した軍部、軍人2人及び民間人3人から成る革命評議会を設置することを発表するとともに、非常事態令、夜間外出禁止令を発布。
10・16	ニカラグア	政府、保険会社を国有化。
10・16	キューバ	カトラー米大統領顧問、「ソ連がキューバに核配備すればSALTⅡ条約を破棄する」と述べる。
10・17	エルサルバドル	革命評議会発足。
10・18	ニカラグア	ソ連・ニカラグア外交関係樹立。
10・21	キューバ	カストロ首相暗殺未遂事件で逮捕され20年の刑に服していたマト

10・22	米 州	ス少佐が刑期終え出所。コスタリカに向かう。 (～31) 第9回米州機構(OAS)総会。31日、ラパス宣言採択(ラパス)。
10・22	メ キ シ コ	パーレビ・イラン元皇帝、病気治療のためメキシコより米国に入国。
10・23	エルサルバドル	新政権、非常事態令、夜間外出禁止令を撤回(3人以上の集会と無許可デモは引き続き禁止)。
10・23	エルサルバドル	米国がエルサルバドルを正式に承認。外国の同国承認はコスタリカ、パナマ、スペインなどに次いで5番目。
10・24	メ キ シ コ	メキシコ政府、アラブ・サハラ民主共和国との外交関係樹立を発表。
10・24	エルサルバドル	政治犯の釈放を要求する反政府武装勢力、労働省と経済省を占拠、250人を人質に立てこもる。 29日、125人の人質を解放。
10・25	メキシコ・コスタリカ	ヤブロンスキー・ポーランド大統領、メキシコ(～30日)、コスタリカ(30～11月1日)歴訪。
10・27	英領セントビンセント	英領セントビンセント、セントビンセント及びグレナディーン諸島として独立。日本政府、同国を承認。
10・27	キューバ	ニューヨークのキューバ国連代表部の入っているビルで反カストロ・グループ「オメガ・セブン」による爆発。
10・28	アルゼンチン・ パラグアイ	ビデラ(J. R. Videla)アルゼンチン大統領とストロエスネル(A. Stroessner)パラグアイ大統領が会談(サルタ)。
10・30	エルサルバドル	極左組織「2月28日人民同盟」のデモ隊、米大使館を襲撃。
10・31	世 界	1980年から向こう5年間のECとアフリカ・カリブ・太平洋諸国との包括的な経済協力を定めた第2次ロメ協定調印(ロメ)。
11・1	ボリビア	アルベルト・ナトウシュ(Alberto Natusch)大佐によるクーデター勃発。ナトウシュ大佐、新しい軍民政府を組織して大統領に就任(議会はクーデターの非難及びゲバラ・アルセ暫定大統領支持を決議)。
11・2	ボリビア	ナトウシュ政権、現国会の機能停止及び3カ月以内の制憲議会議員の選挙実施を発表。
11・2	ニカラグア	政府、外資系アサルコ、ロサリオ、ノランダの各鉱山会社を有償国有化。
11・3	ボリビア	軍事政権に反対する市民、ラパス市内で軍隊と衝突。
11・4	ボリビア	ナトウシュ政権、全土に戒厳令、夜間外出禁止令を布告し、検閲制を実施。
11・6	エルサルバドル	左翼組織人民革命ブロック(BPR)、労働、経済両省の占拠を解除、人質全員を解放。
11・6	ブラジル・ベネズエラ	(～8) フィゲイレード大統領らブラジル政府首脳がベネズエラを表敬訪問。

11・7	ボリビア	11月1日のクーデターで自ら大統領に就任したアルベルト・ナトウシュ大佐、戒厳令を解除し、報道の検閲を中止した旨、及び来年5月大統領選を行う旨発表。
11・9	キューバ	(～16) ソ連軍事使節団(団長はアレクセイ・エピシェフ陸海軍政治総本部長・上級大將)、ラウル・カストロ・キューバ国防相の招待により、キューバ訪問。
11・10	ラテンアメリカ	(～13) アンデスグループ外相協議会設立のための外相会議(リマ)。コロンビア、エクアドル、ペルー、ベネズエラ4カ国外相及びオブザーバーとしてスペイン外相出席。ボリビア外相欠席。11日、ボリビアの事態につきコミュニケ発表。12日、アンデスグループ外相協議会設立文書署名。13日、共同宣言発表。
11・12	メキシコ	メキシコ外務省、テヘランのメキシコ大使館を12日付で暫定的に閉鎖したと発表。
11・14	ブラジル	米国評論家、ジャック・アンダーソン氏、ワシントン・ポスト紙で、ブラジルが核実験の準備をしていることを発表。
11・15	ペルー	カルロス・ガルシア・ベドヤ(Carlos García Bedoya) 外相辞任。当面ベリト(Velito) 内相が外相兼任。
11・16	ボリビア	ナトウシュ大統領、軍部の要請を受け辞任。議会、リディア・ゲイレル(Lidia Guéiler) 下院議長を暫定大統領に選出(同日就任)。
11・16	アルゼンチン・チリ	ビーグル海峡問題に関する共同声明書にブエノスアイレス、サンチャゴ、ローマで同時に調印。
11・16	アルゼンチン	アルゼンチン・英国国交回復。
11・18	ニカラグア	(～20) 米議員団、マナグア訪問。7500万ドルの援助計画について話し合い。
11・19	エクアドル	ラファエル・ロドリゲス・パラシオス(Rafael Rodríguez Palacios) 国防相、乗っていた軍用機の炎上爆発事故で死亡。
11・19	ボリビア	ゲイレル暫定大統領、新閣僚を任命。 内相ホルヘ・セルム・バカ・ディエス(Jorge Selum Vaca Diez) 蔵相アウグスト・クアドロス・サンチェス(Augusto Cuadros Sanchez) 国防相ミゲル・アヨロア・モンタノ(Miguel Ayoroa Montano) 外相フリオ・ガレト・アイジョン
11・21	ブラジル	「政党改編法案」が上下両院を通過、二大政党制幕閉じる。
11・25	ブラジル	旧MDBのタンクレド・ネーベス(Tancredo Neves) 上院議員、「ブラジル民主党」結成へ。
11・28	エルサルバドル	サンサルバドル市内でガードナー南アフリカ大使誘かいされる。
11・28	エルサルバドル	南アフリカとの外交関係を断絶。
11・29	メキシコ	カスタネダ(Jorge Castaneda) ・メキシコ外相、ニューヨークで入院中のパーレビ元イラン皇帝のメキシコ再入国を拒否する旨声明。

11・29	アルゼンチン・ パラグアイ	ストロエスネル・パラグアイ大統領、アルゼンチン訪問。
11・29	エクアドル	国防相を除いた全閣僚退陣。
12・3	プエルトリコ	独立を要求する武装ゲリラの一派が米海軍専用バスを襲撃。米兵2人死亡。
12・4	ニカラグア・メキシコ	ニカラグアの政府代表と債権者代表の間で、4億9000万ドルの債務の繰り延べについて話し合い(メキシコ市)。
12・7	ブラジル	フィゲイレド大統領、クルゼイロ貨の大幅切り下げなど一連の新経済政策を発表。
12・7	キューバ	ニューヨークのキューバ国連代表部で、反カストログループ「オメガ・セブン」による爆発。
12・9	エクアドル	新内閣(ロルドス政権)発足。 農相アントニオ・アンドラーデ・ファナルド(Antonio Andrade Fajardo) 保健相ウンベルト・ギジェン・ムリージョ(Humberto Guillén Murillo) 公共事業相フランシスコ・サア・チャコン(Francisco Saa Chacón) 工業相ヘルマニコ・サルガド(Germánico Salgado) 天然資源相ホセ・コルシノ・カルデナス(José Corsino Cárdenas) 社会福祉相イネス・アラータ・デ・ソローサ(Inés Arrata de Sorroza)
12・11	ニカラグア	米下院外交委員会、ニカラグアへの7500万ドルの経済援助を承認。13日、上院の委員会もまたこれを承認。
12・12	コロンビア・ エクアドル	太平洋岸沖でM8.1の地震。両国国境地帯を直撃。死者約500人。
12・15	パナマ	パーレビ元イラン皇帝、パナマのコンタドーラ島向、米空軍機で米 国(テキサス州の米空軍基地病院)より出国。
12・15	キューバ	アントニオ・ルソン・バトレ(Antonio Lussón Battle)運輸相と ホセ・グティエレス・ムニス(José Gutiérrez Muñiz)保健相の2閣 僚解任。 新保健相にセルヒオ・デル・バジュ(Sergio del Valle) 新運輸相にギジェルモ・ガルシア・フリラス(Guillermo García Frías)
12・16	パナマ	イラン政府、対パナマ石油禁輸を決定。
12・17	世界	(~20)第55回OPEC総会(カラカス)。20日価格については 決定を行わず、来年6月以前に開催予定の臨時総会で見直しを図る、 公式販売価格での開発途上国への石油供給の保証、OPECに関する 理解を深めるためのOPEC通信社の設立等の内容のプレス・リリース 発表)。
12・17	ニカラグア	ソモサ政権協力者と国家警備隊員7000人に対する特別法廷、開か れる(最高刑は懲役30年)。
12・18	パナマ	パーレビ前国王に抗議する約300人の左翼学生、米大使館を襲撃。 大使館前に掲揚してあった米国旗を下ろして引き裂いた。
12・20	ブラジル	フィゲイレド大統領「政党改編法」を裁可。

12・21	パナマ	国家警備隊、パーレビ元イラン国王のパナマ亡命に抗議する学生団の拠点である国立大学構内に催涙ガス弾を撃ち込み銃撃を加え、学生15人負傷。
12・22	キューバ	77ヶ国グループ総会、ハバナ宣言採択（ハバナ）。
12・22	キューバ	軍事代表団、ベトナム人民軍建軍35周年記念集会に参列。
12・24	パナマ	ロヨ大統領、イランのパーレビ元国王の引き渡し要求を拒否。
12・26	グアテマラ・エルサルバドル	グアテマラ政府、コーヒー樹防疫のため隣国エルサルバドルとの国境閉鎖を発表。
12・27	ニカラグア	内閣一部改造。経済計画相にサンディニスタのヘンリー・ルイス（Henry Ruiz）、国防相にウンベルト・オルテガ人民軍司令官。他に、経済相、農業開発相が交代。
12・29	セントビンセント	国際通貨基金（IMF）に加盟。

#### 参 考 資 料

- (1) イベロアメリカ研究所新聞切り抜き（1979年度）。
- (2) 『国際問題資料』（1979年国際情勢日誌）外務省情報文化局、1980年2月。
- (3) *Latin American Political Report* (weekly), *Latin America Weekly Report* (weekly), Latin America Newsletters Ltd., London.
- (4) *ISLA (Information Services on Latin America)* Vol. 18, No. 1, Jan. 1979—Vol. 19, No. 6, Dec. 1979.
- (5) 『革命のニカラグア』（ニカラグア革命史年表）柘植書房、1980年。